

飾本分教会

設立・昭和24年2月26日

祭典日・15日

埼玉県北足立郡伊奈町



初代会長
原田 延夫



二代会長
高橋 嶋江



三代会長
高橋 宏明



初代夫人
原田 クマ



二代配偶者
高橋 藤五郎



三代夫人
高橋 とし子

昭和二十四年二月二十六日

初代会長 原田延夫 任命

昭和四十九年十一月二十六日

二代会長 高橋嶋江 任命

昭和五十二年七月二十六日

三代会長 高橋宏明 任命

飾本分教会初代会長原田延夫は、徳島県徳島市北佐古町の出身であるが、早くから大阪に住み、妻が結髪をする美容院を経営していた。

昭和三年四月、妻が肺結核の身上となり、それが引き金となつて、飾本分教会初代会長夫人竹川としゑの妹のこよからにをいを掛けられ、飾大の初代竹川萬次から、初めてお道の話が聞かされた。

はじめのうちは半信半疑どころか、からかい半分で飾大宣教所に足を運んでしたが、次第に教えの真実に触れるようになり、毎日飾大の初代から真剣に教えを聞くようになった。

昭和四年二月、一切の都合を棄てて教別科四十二期を志願。同校を修了後、直ちに飾大宣教所に住み込み、約一ヶ年、会長の膝下で修養に励み、続いて飾磨分教会に半年住み込んだ。その間、妻の出直し、美容院の廃業等、身の大きな変化に耐え、道一条の心を定め、その実行

に励んだ。

昭和六年七月二十六日、別科を修了して間もない後添いの妻クマと共に、夫婦相携えて東京へ布教に出発した。

原田夫妻は、初め布教の地に静岡を希望していたが、飾大の初代に「同じ東へ行くなら東京で布教してはどうか」と言われ、原田夫妻はその指示にしたがつて、生き馬の眼を抜くと言われる花の東京を布教地と定め出発した。東京には全く親戚知人もなく、飾大の関係者もないという、布教にとつてはまったくの未開地



教会外観

未開地



昭和53年10月16日 地鎮祭を終えて

であったが、日本の首都東京という大都会は将来の道の進展にとつても、無視できない期待の地であった。

原田夫妻の東京での最初の宿は上野公園であった。宿は当然のことだが野宿である。夫婦二人での野宿は警察がやかましく、その夜はまんじりともできぬまま一夜を明かした。

次の日には郊外へと足を向け、日中のをいがけの疲れを農家の軒先で休めたが、体を横にしても、たちまち蚊の襲来で一睡もできず、夫婦は交代で蚊を払いながら少しの仮眠をとつたという。このようにして東京での布教は始まった。

九年に及ぶ布教の結果、十数件の信者を与えていただき、飾大の初代から「布

教所を持たせてもらうように」との声を受け、昭和十五年一月、東京市本所区太平町において飾本布教所を開設し、ようやく布教の芽が出はじめた。

この布教所には飾東二代会長紺谷金彦先生もお訪ね下さったことがある。なおも信者が増えつつあったが、昭和十六年十二月から太平洋戦争が始まり、強制疎開のため、太平町より葛飾区上平井町七十三番地に移転した。

飾大の初代が上京されたときには、いつも夜を徹してお仕込みをしていた働き、また延夫は上級飾大からの手紙を幾度も幾度も繰り返し読み、遠く離れての布教の糧としたものである。

昭和二十三年二月三日、育て導きの親である飾大の初代の竹川萬次が出直した。

この節を生かささんものと、役員信者が一手一つとなり、出直された飾大の初代に喜んでいただきたいとの思いで、教会設立の機運が盛り上がった。同年五月八日から教会設立に向かつての神殿の増改築が始められた。

昭和二十四年二月二十六日、原田延夫を初代会長として教会設立のお許しを頂

いた。

昭和三十二年六月、信者も増加し手狭となったので、客間及び炊事場の一部を増改築した。

原田夫妻が東京で布教を始めて間もない頃、にをいをかけられた高橋嶋江は、高橋家が何代も続いて男性が四十一歳で出直すという心細いんねんを、何とかたすけていただきたいと願っていた折しも、原田夫妻からこの道の信仰によつてのみ、そのいんねんを切っていたことができるのだと諭され、嶋江は直ちに教校別科五十五期を志願し、修了後直ち



神殿内部

に布教に励むようになった。熱烈なにをいがけ・おたすけにより次第に信者も増加してきたので、昭和二十八年十月、東京都江戸川区平井町において飾宏布教所を開設した。

原田会長夫妻には子供が授からなかったので、昭和二十七年三月、飾磨分教会三代会長本庄清則夫妻の三男、九歳になる義正を後継者として養子に迎えた。しかしながら、翌三十八年八月九日、臍臓の病により出直した。

昭和四十九年八月三日、原田延夫会長は八十二歳をもって出直した。その二ヶ月後、妻クマも会長の後を追うように七十八歳で出直した。長年の東京布教がようやく充実してきた頃であった。

後任の会長には、初代夫妻と共に当初から道一条でおたすけに励んでいた高橋嶋江が役員信者の賛同のもと、二代会長就任のお許しを頂く運びになった。

昭和四十九年十一月二十六日、高橋嶋



養子に迎えた
義正君の笑顔

江が飾本分教会二代会長任命のお許しを頂いた。二代会長は、にをいが

け・おたすけに、またよぶべく信者の丹精に励んでいたが、昭和五十一年の秋頃から臍臓の身上となり、翌五十二年五月十七日に出直した。

昭和五十二年七月二十六日 二代会長
の長男高橋宏明が、三代会長就任のお許しを頂いた。

三代会長は高校卒業後、江戸川区の大同製鋼に勤務しつつ、二代会長の手足となつてつとめていた。その間、昭和四十五年十一月とし子と結婚。

昭和四十六年二月十五日、検定講習を修了し、翌四十七年九月から四十九年三月まで夫婦で飾磨分教会に住み込んだ。本庄清則会長富美恵夫妻は、唯一首都に拠点を置く飾本の後継者宏明夫婦を、鉄は熱いうちに打て、との諺のとおり実に厳しく仕込んだ。親心ゆえのこのお仕込みによつて、鋼の如く強くしなやかな信仰が育まれたのである。

飾本では初代会長在世中からの懸案であった教会の移転問題が急速に具体化する事となった。当時の飾本は左右に大きなビルが建ち並んでおり、土地の拡張もできなくなっていたので、広い境内地

を求めるにはどうしても移転しなければならなかった。

昭和五十三年秋、役員青木静子の提案もあり、埼玉県北足立郡伊奈町寿一丁目二四九番地を飾大三代会長竹川俊治が視察し、ここを移転地にと決定した。飾本分教会は移転建築のお許しを頂き、順調に神殿及び付属建物の普請が完成し、一同感激のうちに昭和五十四年十一月四日、移転建築落成奉告祭を執行した。

三代会長高橋宏明は、飾大の月次祭に埼玉から大阪へ、そして二十六日の本部月次祭におちびがえりを欠かしたことがない。また教区や上尾支部副支部長と多役である。神一条、道一条の琴線を通したいと張り切つて歩んでいる。

尚、飾本分教会は、三方谷分教会部内の三生分教会が大正十四年十月に設立されたが、事情教会になつていたので、移転、改称、所属変更をしたものである。



竹川俊治書